

5 月 13 日（土）に実施した概要を紹介します。

【参加者】

OB 15 期 上馬 坂尻
20 期 黒崎
現役 66 期 大倉、林
67 期 濱本、中西

6 : 4 0 イオン集合、現役 2 名が不参加で OB 3 名、現役 4 名
7 : 1 0 ゲート手前の駐車用スペースで下車、以降徒歩で移動。途中は数か所で工事中で大型車両が多く通行中。
8 : 3 0 ダム着、トイレが使用不可で事務所内のトイレを使用させてもらう。
8 : 5 0 ダム発、数台の車があり、ゲート通行許可を受けた個人が入っている。途中は 2 番目の沢の橋が決壊して導水管が露呈しているものの通過には問題なし。高桑碑周辺のがけ崩れも大きな変化なく、通常どおり掃除して献花する。吊り橋手前は数か所で崩壊があるもののロープを補助に慎重に歩けば大きな問題はない。ここまで雨はなく足元は草も少ないので歩行しやすい。



(沢の通過)

1 0 : 3 0 へつりの箇所は流れが変化し、水量計付近は流れがなくなっていて、水量さえ少なければかなり上流に向けて歩行できる。最後は丸太をつたって岩をよじ登って通過する。小屋下には小屋掛けして数名の人が滞在中。少し話をすると、皆さん金大ワンゲルに期待している旨をされ、また一緒に楽しみましようとのこと。



(へつり)

1 0 : 5 0 小屋着、水場を確認するとホースの先端のかごがなくなり、ホース本体は下流に流されていたので引き上げて再設置。亀裂もあり水量は多くないが導水は確認できた。草刈り後、昼食。
1 3 : 2 0 小屋発。雨がひどくなったため増水を心配し、尾根のう回路を通過。帰りも慎重に通過し、1 5 : 0 0 ダム着頃には少雨となる。
1 6 : 2 0 ゲート近くの駐車場に戻る。イオンに戻って解散。

1 年ぶりでしたが、小屋内は特に変化なく、屋根の腐食はやや進み、奥の床板の腐食が気になりましたが大きな問題はなさそう。

参加者は皆さん健脚ぞろいだったので長時間の歩行にもまったく心配なく、久しぶりに現役の皆さんと様々なお話をしながら歩いていると時間が短く感じられました。参加された皆さんには御礼申し上げます。

最低限の確認だけでしたが、小屋が無事でしたので一安心しました。



(ダムにて)

2023年 秋の小屋作業 ～次世代パワーの息吹～

20期 松下 和隆

【日程】

2023年秋、10月7日～10月9日（2泊3日）

【参加者】

■ OB（5名）

（15期）坂尻忠秀

（20期）久富象二、高田泰夫、松下和隆

（22期）黒崎敏男

■ 現役（5名）

（66期）大倉幸章（部長）、江尻伊吹（副部長）、

林 岳瑠 （67期）濱本倫太郎、安田恵輔

■ 集合写真（ベルクハイムにて）



（後列左から敬称略）久富、高田、坂尻、松下、（前列左から）濱本、黒崎、大倉、江尻、安田、林

【1】はじめに

5年ぶりの小屋作業だ。黒崎OB会長に、総会と小屋作業どっちに参加する？と聞かれ、ちょっぴり迷った。総会に出て旧友と久しぶりに再会もしてみたい。だが、コロナ禍での長い巣籠り疲れを考えると、小屋作業という響きに何とも言えない解放感を感じた。加えて思い入れもあった。倉谷で、ベルクハイムで、そして高三郎で、かつて仲間と汗を流したあのひとときが忘れられない。久しぶりのロングタイム（2泊3日）小屋作業だ。5年のブランクで体力面に不安もあった。しかしそれ以上に若い現役生達との交流も楽しみだった。実際、それは大正解だった。彼らには多いに楽しませてもらった。そして体力面でも随分と助けてもらった。今回は、次世代パワーに圧倒された小屋作業だった。

今回の参加者は総勢10名。それを3つの班（2名、2名、6名）に分けて行動した。第1班（久富、高田）は日帰りでベルクハイムの周辺清掃。第2班（坂尻、松下）と第3班（黒崎、現役5名）は2泊3日で、高三郎への道整備と登山を行った。

1日目は高曇りでまずまずの天候。犀川ダムからは明日登頂を目指す高三郎が見える。重たい荷物（食料やテントなど）を分担し、秘境の地、倉谷へと向かった。



犀川ダムサイトにて。後方には明日登頂を目指す高三郎が見える。

【2】難を免れた、高桑（19期）さんの碑

ダムサイトを出発して歩くこと約30分。第一の切れ込み（カン谷）を過ぎた所で大規模な土砂崩れに遭遇する。ここは高桑さんの碑や（元住民の方の）顕彰碑があった場所だ。道のほぼ全域が岩石で埋まっている。顕彰碑には直前まで土砂が迫り、ダム湖に落ちる寸前で止まっている模様。他方、そのすぐ横にある高桑碑は奇跡的に難を免れていた。何か運命的なものを感じる。高桑さんの在りし日の笑顔が思い浮かんだ。皆でブッシュを刈り取り献花する。



（左）大規模な土砂崩れ

（右）押し流された顕彰碑



奇跡的に難を免れた高桑碑

【3】 気が抜けない倉谷への道

出島まで来た。かつて新トレを経験されたOBの方なら、ここまで来るとベルクハイムはもう近いとお思いのことだろう。だが、そうは問屋がおりさない。ここからが難所続きなのである。出島から吊り橋へと続く300mほどの区間は、まったく気が抜けない。ヘツリ状に狭くなった箇所が数か所あり、補助ロープ無しでは歩行が困難な状況だ。倉谷川までの落差は10mほどだが、足を滑らせるとやはり大怪我をするだろう。ザックを斜面にこすらぬよう、慎重に通過する。



狭くなったヘツリ状の道

ここをなんとか無事に通過して、吊り橋に至る。ほっと一息ついたら、やっと秋の景色が眼に入ってきた。吊り橋を渡ると旧倉谷村。ここはもうすっかり秋だ。栗の実を踏みしめながら歩く。実がポンと飛び出る様はなんとかわいい。秘境の地の秋は、静かでとても味わい深い。

この快適なハイクもつかの間、第二の難所がやってきた。水量計周辺のヘツリである。倉谷の水量は少なくなっているものの、アクロバティックな丸太の道は、相変わらず気が抜けない。



気が抜けない丸太道

【4】 ベルクハイム到着、と思いきや

丸太道を抜けてやれやれと思いきや、秘境の面影はまだあった。目の前の河原一帯が、ススキの猛烈なブッシュに覆われていたのだ。道の痕跡などどこにもない。ブッシュの中へ手探りで突っ込む。もがくこと20分。やっとのことで小屋前の坂に出た。目と鼻の先にあるはずの小屋がこんなに遠く感じたのは始めてだった。

予定より1時間ほど遅れた11:30ころ小屋に到着。みんなへろへろだ。まずは小屋の中で昼食。その後、日帰り隊(久富、高田)が水確保のためホースを調査し取水を試みる。しかし、水はチョロチョロと出たもののその後まったく出ず。ホースに亀裂3ヶ所とバルブ不良1ヶ所がある模様。漏水が激しく、本格的な修理が必要と思われる。

13:00ころ日帰り隊は下山。その他のメンバーは草刈機2台を持参して、今夜のテン場(新道850m付近)へと向かった。



ベルクハイムにて。しばしの休息

【5】 テン場がない！

再びボッカが始まった。倉谷川に沿って金山谷まで歩く。以前あった丸太橋はもう影も形もなく、飛び石を頼りにぴょんぴょんと渡渉する。



金山谷の渡渉

新道の登りに取りつく。最初の急登 300m は地獄だった。ロープや枝を掴みながら這いつくばって登る。前に行く現役生達にすぐ置いて行かれる。ああ、俺も随分とジジィになっちまったものだと、身に染みて感じた。前を歩く現役の林君がやさしく気を遣ってくれる。「松下さんが遅れてま〜す。ちょっと待ってくださ〜い」と。

急登が終わり標高 700m ぐらいからは、ブナ林の緩やかな道が続く。この辺りから草刈り作業を予定していたが道の状態は良くそのまま予定のテン場（850m 付近）まで進んだ。しかし、いつになってもテン場が現れない。結局見つけられないまま栃倉分岐まで行ってしまった。もう誰も来ないだろうという予想の元、ここで設営させてもらう。草刈り機でスペースを広げ、3 張り（6 人、3 人、2 人用）を設営することができた。



栃倉分岐にて設営

次の朝、予定のテン場が見つけられなかった原因を探りに来た道を下ってみた。現場を見て納得。5 年前に切り開いたテン場はもはや影も形もなく草木に覆われていた。完全に自然に還っている。これじゃ見つけられないわけだ。



5 年前のテン場（道の右側）。自然に還ってしまう

【6】高三郎登山 & 登山道整備

2 日目は、高三郎登山と道整備を実施。天候は高曇りでまずまずだ。黒崎氏リーダーのもと現役 5 名は、予定通り 7:00 頃、高三郎に向かって元氣よく出発した。



高三郎に向かう黒崎氏と現役生たち

彼らを見送った草刈り隊（坂尻、松下）は、2 台の草刈り機を使って栃倉分岐からクラコシ尾根へと草刈り作業に専念。深いブッシュ（笹と灌木）と格闘しながら 500m ほど道を開いた。5 年もたつと、あっという間に元のブッシュだ。



（左）笹ブッシュに突っ込む現役生

（右）そこを刈る坂尻氏

10:30 ころ黒崎氏から無線が入り、全員無事、高三郎に登頂したと連絡があった。このブッシュじゃ現役生達もきっと苦労したことだろう。案じてただけにひとまずホッとした。その後我々も草刈りを再開。やがてガス欠となり昼食とした。

13:00 頃に登山隊と合流。激しいブッシュ漕ぎと気の抜けない道に、みんな疲れた様子。ご苦労さん。それでも現役生達は充実した様子。普段の部活動とは一味違うこの山行に、スキルアップした、自信がついた、などの感想をもらしていた。この倉谷というワンダーランドに、少しでも興味(遊び心)を持ってくれれば嬉しいね。



(左) ナイフリッジを歩く現役生

(右) 高三郎登頂に歓喜する現役生

【7】感想と今後について

今回は、現役生達がとにかく明るかった。おしゃべり大好きで、歩いていても賑やかだ。テントの中でも小屋の中でも、わいわい、がやがや、とっても仲良し。我々OBも多いに楽しませてもらった。話題も豊富で、2日目の夜は、小屋で遅くまで語り合った。私は調子にのって、いつの間にか、ベルクハイムの生い立ちや先輩達の思い出などを(くどくど)語っていた。

「ベルクハイムは人里離れた秘密基地のようなもの。かつての先輩達は、ここで魚釣りやキノコ採りなどを思い思いに楽しんだ。中には卒論研究のフィールドベースとして、この小屋を活用していた人もいたのだよ」などなど。

ここで私は、はっと気がついた。こりやまずいぞ、年寄りの昔話で彼等を退屈させちゃった、と。しばしの後悔。ところが彼らの反応は逆だった。この小屋を自分たちのものとして活用してみたいと言う。そのためには、何をやるべきか。彼ら

は次のように語ってくれた。

- (1) まずは小屋までの危険な道を整備すること。スキルのない部員でも安全に小屋へ来られるようにしたい。
- (2) 次に小屋の雨漏り修繕や水の確保など。快適な居住空間を整備し、釣りなどを楽しめるようにしたい。

同志を募りこれらをぜひやってみたい。ただ、僕らにはこうしたノウハウが無いので、OBの支援をぜひ仰ぎたい、とのことだった。

これらの案件は、来年2月頃に催されるOBと現役生との懇親会で相談される予定。現役の、次世代パワーに期待したい。



陽気でパワフルな現役生達(金山谷)

【追記：現役の皆さんへの情報提供】

最終日の帰りに、高巻ルートを使用しましたね。それは下記地図では(BH→④→ヤセ尾根→⑩)のルートです。また、皆さんと一緒に鉄塔まで偵察に行った際、そこで私がアドバイスした道は下記③のことです。ご参考まで。



高巻ルートの水平化案(梶氏作成、やまざと 2018より引用)